

ムサビとこれからのマガジン

msb! magazine

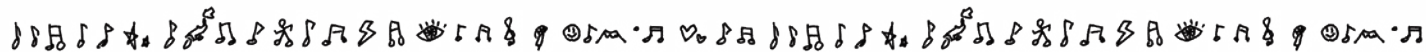
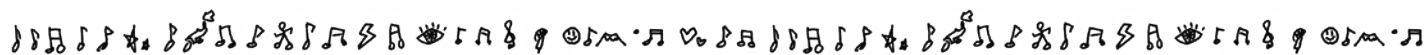
2025 / Autumn & Winter — No.121

2025年12月現在会員数 1 / 77,760



msb!

MAU and The Future Magazine



LONG INTERVIEW - vol.49

シンガー・ソングライター／詩人

柴田 聡子

Satoko Shibata



わたしのつくること、生きること。

No.33

映画プロデューサー

河合 早苗 Sanae Kawai

前略、あの頃のきみへ。

No.4

名誉教授

遠藤 彰子 Akiko Endo

校友発掘キャラバン

No.74

絵本作家

うたのアトリエ主宰

齋藤 慎 Maki Saito

No.75

「東京画廊」代表取締役社長

山本 豊津 Hozu Yamamoto

No.76

デザインストラテジスト

株式会社「CONCENT」取締役

大崎 優 Yu Osaki

2025年度
定期総会のご報告

開催日時 2025年6月28日(土)

開催場所 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 8階

配信 Zoomにて

書面表決にて、
下記の条件での審議・議決が成立いたしました。
委任状・書面表決書をお送りいただき、
ありがとうございました。

第5章・第15条・5項に基づき条件を満たし成立
全卒業生数77,760名/会費納入者数42,442名(2025年6月23
日現在/逝去者を除く)/総会成立条件424名/書面表決書賛成総数
179名/書面表決書反対総数1名/委任状総数424名/合計604名

議案：第1号議案2024年度事業・活動報告/第2号議案2024年度決算報告書ならびに会計監査報告/第3号議案2025年度役員改選案/
第4号議案2025年度事業・活動計画案/第5号議案2025年度予算案
書面表決書の賛成総数179名が、書面表決書合計180名の過半数を超えたため、全ての議案が承認されました。ありがとうございました。



グループワーク風景



懇親交流パーティーではクリエイティブイノベーション学科教授の若杉先生(ギター)と榎原太郎さん(ベース)がマルスデュオとして登場、そして飛び入りで宮城支部の吉田ユージンさん(ハーモニカ)が会場を沸かせました！

なかはら しゅんざぶろう
中原 俊三郎

2025.6.29 逝去
1994.4 武蔵野美術大学専任講師
武蔵野美術大学助教授
2003.4 武蔵野美術大学教授
(工芸工業デザイン学科)



恩師訃報

なす かつや
那須 勝哉

2025.10.3 逝去
2006.3 武蔵野美術大学定年退職
同年4月名誉教授

ながお しげたけ
長尾 重武

2025.10.23 逝去
2015.3 武蔵野美術大学定年退職
同年4月名誉教授

会長挨拶

武蔵野美術大学 校友会会長

はぎはら ゆきや
萩原 幸也

2029年、武蔵野美術大学は創立100周年を迎えます。100周年に向けて、母校に寄与できるよう、引き続き努めてまいります。皆さまからのご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。大学公式WEBサイト「MAU2029 100周年ウェブマガジン」では、吉祥寺校の大型モザイク壁画を鷹の台キャンパスへ移設したプロジェクトをはじめ、さまざまなインタビューや対談等が掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

今年の総会では「支部のトリセツ」を支部の皆さまにご準備をいただき、それを通してお互いの支部のことを知る、というグループワークを行いました。困っていることや強みを共有することで、より実用的な話し合いができ、大いに盛り上がりました。校友会WEBサイトの「支部情報」にも一部掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ご参加いただき、ありがとうございました。

さて、一般社団法人設立に関して準備を進めてまいりましたが、支部の皆さまへのご説明と意見交換の場を設けるため、一般社団法人設立を1年延期し、2026年度の設立を目指します。一般社団法人の会則にあたる定款の整備をはじめとする、平等に基づいた組織づくりができるよう、皆さまと意見交換を重ねつつ進めてまいります。以前からお伝えしている通り、校友会の基本的な理念、校友活動・学生支援、母校への貢献はこれまでと変わりません。また、支部活動も継続いただきたいと思います。

奨学金募金のお願い

皆さまからの会費と募金が学生への支援、校友会の後援事業等の支えとなります。2029年の大学100周年という大きな節目にあたり、更なる学生支援に努めてまいります。

※校友会奨学金基金へのご寄付は、同封の払込票をご活用ください。

M A U
Information吉祥寺校
モザイク画の移設について

武蔵野美術大学発祥の地である吉祥寺校の2024年3月末の閉校に伴い、吉祥寺校2号館3階にあったモザイク画を本学関係者の協力のもと、2025年3月に鷹の台キャンパス7号館4階に移設しました。

このモザイク画の詳細は以下のコラムの通り、1960年頃に制作され、以降吉祥寺校の象徴の一つとなっていました。今回、オリジナルを残す、という意図から特殊な工法により壁面から引き剥がし、新たな場所へ移設しました。

ぜひ本学発祥の地の象徴としてのモザイク画をご覧いただき、身近に感じていただければと思います。

「モザイク壁画移設プロジェクト」
吉川 民仁教授インタビュー

2029mag.musabi.ac.jp/magazine/post-19/

「モザイク画と賄い飯第2回」
水上 泰財教授コラム

2029mag.musabi.ac.jp/colum/2599/

(武蔵野美術大学100周年ウェブマガジン)

お手元に図書館の本を
お持ちではないでしょうか？

卒業生みなさん、在学時に借りたままになっている図書館の本はありませんか？2005年度以降の貸出記録だけでも、卒業生907名の1,964件が延滞資料となっています(2024年12月末時点)。残念ながらこれらの資料は、在学生や教職員から利用希望を受けても利用できない状況です。これらの未返却資料のうち、購入可能なものは新規に購入するケースもありますが、購入困難な資料も多くみられます。もし延滞資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、在学生のためにも、今すぐ図書館までお送りください。

送付先: 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 武蔵野美術大学 美術館・図書館 宛
TEL: 042-342-6004

恐れ入りますが、送料はご負担ください。資料名、バーコード番号などを控えてください。資料が傷まないように緩衝材などで梱包してください。簡易書留または宅配便でお送りください(紛失時に追跡ができるように)。宛名面に「返却図書在中」と明記してください。

※なお、延滞資料が残っている方は、図書館のご利用はできません。

ムサビ展覧会情報

開館日時の変更などを行う場合がございます。
最新情報は、WEBサイトや各種SNS等をご確認ください。

鷹の台キャンパス・市ヶ谷キャンパス

2025年度 武蔵野美術大学
卒業・修了制作展

鷹の台キャンパス 9:00-17:00(最終入場16:00)

2026.1/15(木) - 1/18(日)

市ヶ谷キャンパス 10:00-20:00(最終入場19:30)

2026.1/30(金) - 2/1(日)

2025年度 武蔵野美術大学
造形学部 通信教育課程卒業制作展

鷹の台キャンパス 10:00-16:00

2026.2/28(土) - 3/3(火)

問合せ先 WEB:cc.musabi.ac.jp

美術館・図書館

助教・助手展2025
武蔵野美術大学助教・助手研究発表

11/24(月・休) - 12/21(日) 展示室2・4・5・6、アトリウム1・2ほか

甦るポストモダン
——倉俣史朗、小松誠、高崎正治、デザインの間人主義

ヒューマニズム

11/24(月・休) - 12/21(日) 展示室3

開館時間 11:00-19:00(土・日曜日、祝日は10:00-17:00)

休館日 水曜日、展示準備期間、入構禁止期間

入場料 無料

問合せ先 TEL:042-342-6003 | WEB:mauml.musabi.ac.jp | X @mau_m | Instagram @mau_m

gallery αM

αMプロジェクト2025-2026

「立ち止まり振り返る、そして前を向く」

ゲストキュレーター: 大槻 晃実(芦屋市立美術館)

— vol.4 高橋 耕平・12/13(土) - 2026.2/21(土)

武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス2F

開廊時間 12:30-19:00

休館日 日・月曜日、祝日(冬季休廊12/21(日) - 2026.1/5(月))

入場料 無料

問合せ先 TEL:03-5829-9109 | WEB:gallery-alpha.com

「先輩の活躍」
本棚

送付先: 〒187-8505
東京都小平市小川町1-736
武蔵野美術大学 美術館・図書館
「校友献本受け入れ」係

美術館・図書館では「先輩の活躍」という書棚を設け、卒業生が関わった本を在学生に紹介し、貸出可能な蔵書としています。関係したご本人より献本をいただける場合は、下記宛にお送りください。

(なお、その際には関わり方についてお知らせください。
例: 筆者、編集者、監修、イラスト、装丁等)

時代やメディアが変わっても、
自分で自分の音楽を作り続ける

○ シンガー・ソングライター／詩人 柴田 聡子

Singer-songwriter / Poet Satoko Shibata

2012年にデビューアルバム『しばたさとこ島』で音楽家キャリアを本格的にスタートした柴田聡子。音源リリースや楽曲提供、ライブ・フェス出演を精力的に続けるほか、現代詩で受賞歴を有するなど詩人としても活躍している。その飽くなき創作意欲の源にはなにがあるのか、学生時代やこれまでの活動を振り返りながら語ってもらった。



Photo : Rie Amanc

曲作りが好きで、常に作っていたい

— 柴田さんといえば、2024年リリースの7thアルバム『Your Favorite Things』が大きな話題となりました。多くの方から“傑作”と称されたこのアルバムは、どのように生まれたのでしょうか。

前作『ぼちぼち銀河』(2022年)はセルフプロデュース作品だったので、「前回やり残したことをやりたい」という思いをもちつつ、音楽家の岡田拓郎さんを共同プロデュースにお迎えして一緒に制作したのがこのアルバムです。岡田さんは私がバンドセットでやり始めた初期のころからギターで参加してくれていて、前作にもプレイヤーとして参加してくれているんですけど、『Your Favorite Things』ではサウンドプロデュースを担当していただきました。

アルバムのコンセプト的なものはあまりなくて、曲ごとにドラムの音の一つひとつ気をつけて録ろうとか、自分のボーカルの詰めにちゃんと向き合おうとか、前作でやり残したことを丁寧にやっていく感じでした。とくにドラムのレコーディングは「空間まで録る」みたいなところがあって、ドラムを使う曲であればとても大事な要素だと気づきました。岡田さんはずっとそこを重視して作品を制作してきた方なので、今作でもキモになっています。



左から「しばたさとい島」(2012)／「ぼちぼち銀河」(2022)／「Your Favorite Things」(2024)／「ときめき探偵 feat.Le Makeup」(2025)

— このアルバムは柴田さんにとってどんな位置づけですか。集大成なのか、転機なのか。

あまり考えたことがなかったですけど、「いちばんやったなあ」って感じですかね。岡田さんをはじめ、一緒に制作してくれたミュージシャンやエンジニアの方々が本当にがんばって向き合ってくださったおかげで、レーベルやスタッフの方々の士気も上がっていった、その空気のなかで思いきりやらせてもらえたと思います。

ただ、それでもやり残したことはいっぱいあって。自分のボーカルレコーディングはもっと表現力を向上させたいですし、それにまつわるミックスとかも、次回はもっとうまくやれるんじゃないかって岡田さんと話していました。曲作りに関しても、曲のなかで自信をもてない部分がどうしてもあったので、次は全部きっちりやっていきたいです。

— 柴田さんの楽曲は、ギター弾き語りからDTM*¹まで、ジャンルもフォークからR&Bやヒップホップまで、曲ごとに多彩なエッセンスを感じられるところが魅力です。その幅の広さは意識的に？

私、「バリエーション恐怖症」なんです(笑)。美大出身の方は
おわかりになると思うんですが、受験予備校で鉛筆デッサンを
習っていたとき、先生から「同じ線を引くな！」ってひたすら言
われ続けていて、「鉛筆というひとつのメディアで質感を描き分
けろ！」みたいな。それがおもしろくて好きだった部分もあるん
ですけど、当時の教えがトラウマ級に頭に染み込んでいて、「も
のごとにはバリエーションがないとダメなんだ」と思ってしまう
節があるんです。だから、できる限りいろんな曲を作ろう
と思っています。



— なるほど(笑)。曲を作りたくなるタイミングや、曲作りのスタイルはどんな感じでしょうか。

曲を作ること自体が好きで、常に作っていたい気持ちがあるので、自然と生まれてくることが多いかもしれません。ただ、曲作りって筋トレみたいなところがあって、やっていない時間があるとやりかたを忘れちゃうから、それを予防するために毎日作るようにはしています。

作曲スタイルでいうと、詞先・曲先^{※2} どちらか訊かれることがよくありますが、両方ありますし、同時に出てくることもあります。自分のなかのセオリーはとくになくて、自由に作っていますね。ひらめきをメモや録音に残すこともあるんですけど、役に立ったり立たなかったりなので、ストックにはあまり期待していません。

— 「曲を作ること」がアーティストとしての根源的欲求だとしたら、「ライブ」は柴田さんにとってどんな位置づけなのでしょう。ギターやピアノの弾き語りソロ、バンドセットなど形態もさまざまですが。

楽しいと思う反面、毎回修行のような感覚です(笑)。バンドのメンバーはみんな最高なので、その分がんばらなきゃいけないと思いますし、弾き語りだと自分の実力のみでの勝負になるので、「グルーヴ出ないな」「もっとうまくなりたいな」と思いながらステージに立っています。ライブ自体は2010年頃からやっているのもう15年経ちますが、いまだに毎回「満足してもらえてるかな？」とすごく気になっていますね。イベントに声をかけてくださることも、お客さんが聴いてくださることも本当に嬉しいので、もっといいライブができるように実力を磨きたいです。

2025年11月名古屋、大阪、東京で公演された弾き語りホールツアー「柴田聡子のひとりぼっち25」



柴田聡子のひとりぼっち25
11月11日、12月12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

自分の作品や行為から

コミュニケーションが生まれる体験

— 音楽を好きになったきっかけはありますか。

小中学生のころ、ケーブルテレビで『SPACE SHOWER TV』『Viewsic(現：MUSIC ON! TV)』『MTV』などの音楽チャンネルをずっと観ていて、そのころから洋楽も邦楽もよく聴いていました。

とくに印象に残っているのは、1990年代終わりから2000年代初頭のアメリカのヒップホップカルチャー。TLC、Destiny's Child、Eminemや50CentなどDr. DreまわりのヒップホップMC……、そういうヒップホップやR&Bの音楽がいま思えば好きだったなあと。邦楽だと、くるりなどのバンドを聴いていました。

— ピアノを習っていたとか、ご自身で音楽をやっていたことは？

ピアノは習っていましたが、3～4年で辞めちゃいましたね。楽譜も読めなかったし、たいして身につかなかったです。

— ではピアノもギターもあとから習得した感じなんですね。意外です。そこからムサビの映像学科に進学することになったのは、どんな経緯からでしょうか。

当時、『MTV Video Music Awards』が始まったり、ミシェル・ゴンドリーなどおもしろいビデオを撮る映像作家が出てきたり、海外でも日本でもミュージックビデオの文化がめっちゃくちゃ盛り上がっていて。そこからなんとなく映像に興味をもったんです。地元の札幌を出てどこかに行きたいという気持ちも大きかったので、ムサビ以外にも東京や京都の芸術系大学を受けて、一浪でムサビに入りました。

— 1～2年次の基礎的な授業で印象に残っているものはありますか。

何年生のときだったかは忘れちゃったんですけど、ドキュメンタリーの授業はすごくおもしろかったですね。映像編集の授業も、自分でビデオカメラで撮影して、編集室にあったソフトで編集していく過程がおもしろかった。あとは音楽やパフォーマンスの授業も印象に残っています。

映像学科って、最初の最初はカメラ・オブスキュラ^{※3}の授業があったりするんです。映像の起源から学べたのはすごく嬉しかったし、映画史もリュミエール兄弟やエイゼンシュテインまで遡ってちゃんと教えてくれて。入学前は「映像＝ミュージックビデオ」くらいの認識でいた私にとって、ムサビの授業はカルチャーショックの連続で、広告的な側面の強いミュージックビデオから徐々に興味関心が移っていきました。

— 熱心に授業に取り組む学生だったんですね。

当時の自分をあまり客観視できないんですけど、地元とは情報量が桁違いだったし、哲学とかメディアアートとか映像以外の授業もすごくおもしろかったので、授業も課題も一生懸命やっていました。大学の近くに住んでいたこともあって、どこかへ遊びに行くというよりはイメージライブラリーや図書館によくいました。六本木にあった『SuperDeluxe』にライブを観に行ったり、映画館に特集上映を観に行ったりはしていたかな。

— 3年次以降は授業の専門性がより高まると思いますが、柴田さんはどんな領域を学んでいましたか。やりたいことの方向性が見えてきた時期でしょうか。

4年生のとき、メディアアートやサウンドアートを専門に研究しているクリストフ・シャルル先生のゼミに入ったのですが、オープンキャンパスでシャルルゼミがプレゼンテーションイベントをすることになったんです。当時、メディアアートの第一人者として著名な中嶋興^{*4}さんがムサビで教えていらっしやったんですけど、イベントでなにをするか興さんと話していたら「お前は歌うか踊るかだろ」って言われて。「なぜ？」と思ったんですが、「まあ、踊るよりは歌うほうがまだできるかな」くらいの感じで自作の曲を当日歌ってみたら、お客さんや学生の方々とわりといいコミュニケーションができたんです。シャルルさんから「一緒にバンドやりましょう」と言われたり、後輩から話しかけてもらったりも。

自分の作品や行為から誰かとのコミュニケーションが生まれる体験って、それまでの人生であまりなかったもので、いままでにない楽しさを感じました。具体的にやりたいことは、大学を卒業するまで、もっといえば最近になるまでよくわかりませんでしたが、現在の活動につながる最初のきっかけはあのオープンキャンパスだったと思います。

— 中嶋さんの先見の明に驚かされます……。それまで人前で歌ったことは？

ないです。ただ、ムサビに入学する前後から大学3年次くらいまでの時期に、曲を書いたりライブをしたりしていたことはありました。同じ予備校に通っていた友人とユニットを組んで、私は作曲とギターで、その子はボーカルで。でも、ギターもコードが弾ける程度だったし、完全に趣味みたいな感じ。「これでやっていきたい」とかそういう思いは一切なかったんです。

だからオープンキャンパスのときも、誰になにを言われるとかは考えずに自由にやりました。当時、北朝鮮からミサイルの発射が頻繁にあって、同じく札幌から上京した友人と「実家に帰るかどうするか」みたいな話をしていたので、詞の内容はそんな感じでしたね。曲も弾けるコードを適当に押さえて、途中で弦を緩めたり。ゼミではメディアアートのなかでもパフォーマンスアート作品に触れる機会が多かったので、そういうものを頭に置いてパフォーマンスした気がします。



学生時代の制作風景

—「作品を介して自己を表現すること」と「自分の体を使って人前で表現すること」では感覚が大きく変わってくると思うのですが、そこにハードルは感じませんでしたか。

昔から「私のことなんて誰も見ていない」というのが根底にあるんですよね。「自分のなかに確固たるものがあって、自分はめっちゃいいと思っている」みたいなこともあまりないし、だから「評価されたい」というようなこともあまり思いつかなかった。自分は世界のなかのただのひとりで、別に誰も見ていないから、「人前でなにかをする」というのを特別意識することはなかったです。

卒業制作のときも、「山に登って歌を歌い、それを映像に収める」という作品を作ろうとしたんですが、「自分が歌う」「パフォーマンスする」ということに対して無自覚すぎて、歌っている自分の姿がほとんど映っていないという失敗作を作ってしまったくらい(笑)。講評でシャルルさんか誰かに「その場で歌えばいいじゃん」と言われて、卒制の展示中は映像の前でできるだけ長くパフォーマンスするようにしていました。

ミュージシャンとして誰かになにかを言われる機会が増えてからは、そういう自意識も芽生えてきたんですけど、基本的な考えかたはいまも変わらないですね。

「自分で自分の音楽を作る」ことを 忘れない

— ムサビ卒業後は藝大大学院の映像研究科に進学されていますが、その時点ではまだ「ミュージシャンの道に進もう」という気持ちはなかったのでしょうか。

そうですね。明確にそう思ったことは一度もないかもしれません。誰かが声をかけてくれたり、一緒にやってくれる人がいたり、音楽を続けさせてもらえる環境がその都度あったという。ただただラッキーの連続だったなと思っています。

藝大の大学院に興味をもったのは大学4年生のとき。ゼミの交換留学プログラムでフランスのナントに行ったんですが、そのときに一緒だったのが藝大でメディアアートを教える藤幡正樹先生のゼミの院生でした。ナントでみなさんと交流しながら作品を作ったり展示をしたりするうちに、藝大っておもしろそうだなと。

— 大学院ではどんな研究や活動をしていましたか。

映像研究科には映画・アニメーション・メディア映像という3つの専攻があって、私は藤幡さんがいるメディア映像を専攻しました。ダンサーの人もいれば、プログラミングをやりたい人や絵を描いている人もいるようなところだったんですけど、教授の専門分野もさまざま。メディアアートの藤幡さん、クリエイティ

ブディレクターの佐藤雅彦さん、メディア論研究者の桂英史さん、工学博士の桐山孝司さんという4人の教授のもとで、1年次の前期はみっちり課題に取り組みました。そのあとはゼミに分かれて自分の作品を作っていく感じでしたね。

私はそのころから曲を書き溜めていて、たまにライブもやっていました。院が横浜だったので私も横浜に住んでいて、黄金町に当時あった『試聴室その2』というライブバーのイベントに声をかけてもらったり。そこの店長だった三沢洋紀さんには、大学院修了後にリリースした1stアルバムのプロデュースに入っていたなどお世話になりました。

— 映像やメディアアートの世界から音楽の道に進むようになり、学生時代の経験が活かしていると感じることはありますか。

自分の音楽をいろんな人にたくさん聴いてほしいという欲望はありつつも、時代やメディアの変化で、多くの人が求めるものに自分の音楽が必ずしもフィットしないな、とも感じています。人は人のことを簡単に「オワコン」って言うので、そういう対象になることはすごく怖いし耐えきれないとも思うんですけど、同時に「しかたないな」とも思う。無理してフィットさせたところで自分が虚しくなっちゃったらずいと思うので。

その点、シャルルさんや興さんや藤幡さんは「自分の思うことをずっとやっている」という信頼感があって尊敬しています。当時は外から見るとメディアアートがすごく盛り上がっているように見える時代でしたが、世の中のトレンドがどうか、お金になる・ならないとかはあまり気にせず、でもそれが一気にトレンドに上がったり、上がらなかったりする。結局、自分の興味をしっ



かり追っている人の作品のほうが私は好きだし、学生時代にそういう姿を見てきたからこそ、私も「自分で自分の音楽を作る」ことを忘れないようにしようと思っています。

商業音楽をやっている身としてはトレンドを気にすることも大事だし、お金もあればあるほどできることが増えるから大事だとは思います。「お金なんていいよ」と言う人がいたら、絶対にほかの誰かがその尻拭いをしている。それが世の中の掟だと、私も歳を重ねてわかってきたので、お金について考えるのは大変ですけどやっています。でも、大学にはいろんなことを思っているいろんな人がいて、たとえそれが現実からかけ離れていたとしても、その意思を尊重する人たちがいる。そういう環境に長くいられたことは、すごくありがたかったなと思いますね。

— ご自身でミュージックビデオをプロデュースされたりとかは？

いや、超最高のクリエイターが毎回撮ってくれているので、全面的にお任せしています。いつか映画を作りたい気持ちはあるんですけど、映画って本当に大変なので……。労力の凄まじさや検討の多さが比ではなく、私にはちょっと無理ですね(笑)。映画に携わる人は本当に尊敬しています。

— ほかに興味のあることや挑戦してみたいことはありますか。音楽でもそれ以外でも。

音楽でいえば、ベースとドラムをもっと理解したいです。バンドに曲をもっていくとき、ベースラインやドラムビート、ベース



ブログ「ひっそり庵」やホームグラウンドの神保町試聴室で2013年6月からほぼ隔月開催しているレギュラーの弾き語りワンマンライブ「ひとりぼっち」、バンドセットでのライブなど様々な切り口で表現活動を展開している。



とドラムの絡みなどのイメージが自分のなかで明確にないと相手に伝わりにくいと感じることがあるので、もうひとつ言語を増やしてコミュニケーションを強化したい。あとは新しいアルバムを作りたいなとも思っています。

音楽以外だと、詩や文章を書くことは続けていきたいですね。ただ、私の興味は「書いて文字に起こす」だけじゃないな、と最近感じています。「詩的である」というのはどういうことか、詩歌に収まることだけが「詩的」というわけじゃない、みたいなことを考えていますね。

この間、詩人のカニエ・ナハさんが出版された『カニエ・ナハ詩集』の解説を書かせていただいて、めちゃくちゃ大変でしたけどすごくいい経験でした。字数制限があるなかで全部を解説するのは無理だし、作品が定着して成長していく過程が見えているのに現時点でのことしか書けないのも難しかったです。深く読めば読むほど綿密に書かれていることがわかって、「いつまでも心に残る作品ってこういうことなんだな」と思いました。そうやってものを作っている人の存在は本当に励みになります。ひたすら自分を掘り続けるみたいな。ものを作るって、結局それでしかないんですよね。そうあらためて実感しました。

※ 1 デスクトップ・ミュージック (Desktop Music) の略。PC ソフトを使用して制作する手法。

※ 2 楽曲制作時の作詞と作曲の順序を表す言葉。

※3 写真の原理を利用した投影装置。小さな穴から暗室に光を取り込むと、反対側の壁に外の景色が逆さまに映し出される。

※ 4 1960年代より実験的なアニメーション、写真、デザインなどを手がけ、1970年よりポータブルのビデオカメラを購入し、くビデオアース東京」を結成。ビデオを個人の記録メディアとして、また生命や思想的な表現を行う媒体として捉え、ユニークな視点でパフォーマンスやドキュメンタリー、インスタレーションなど広範囲の活動を国内外で行う。2025年2月逝去。



柴田 聡子 Satoko Shibata

シンガー・ソングライター／詩人。北海道札幌市出身。

2010年武蔵野美術大学卒業後、東京藝術大学大学院修了。

2010年武蔵野美術大学中退後、東京藝術大学入学。2010年、大学時代の恩師の一言をきっかけに活動を始め。2012年、1stアルバム『しばたさとこ鳥』でデビュー。以来、演劇の祭典「フェスティバル／トーキョー13」では1時間に及ぶ独白のような作品『たのもしむすめ』を発表するなど、歌うことを中心に活動の幅を広げ、現在までに7枚のオリジナル・アルバムを発表。



Creation is my life No.33

映画プロデューサー／河合 早苗

Sanae Kawai

河合 早苗(かわい さなえ)

映画プロデューサー。SASSO CO., LTD. 代表取締役。インテリア・プロダクトデザイナー。1986年 Michele De Lucchi 建築設計事務所(ミラノ)勤務。1991年 STUDIO SANAE KAWAI 設立(プロダクトデザイン、空間設計)。2019年 SASSO CO., LTD. 設立(映像・デジタルコンテンツの企画製作・配給)。2024年ドキュメンタリー映画「フィシスの波文」企画・製作・プロデュース・配給。



昨年2024年4月、初めて企画・製作・プロデュースしたドキュメンタリー映画「フィシスの波文」が劇場公開され、国内30ヶ所、海外4カ国で上映されました。神戸でプロダクト、住宅デザインの仕事をしていた私が何故映画を作ったのか。映画制作に至る出会いを振り返ってみたいと思います。

高校3年の秋、美大へ進路を変更し、武蔵野美術短期大学デザイン科工芸デザイン専攻木工コースに入学。一からデザインの基礎を学び、家具制作ではものづくりの面白さを知りました。1年生の夏、アイヌの民俗調査をされていた相澤 韶男先生の紹介で、北海道二風谷で1か月間、農作業のバイトをしたことは、貴重な体験でした。その時初めて、アイヌ民族は100年前まで文字を持たず、文様、歌、踊り、口承で文化を継承してきたことを知り、文字以前の文様に不思議な魅力を感じました。

卒業後は島崎信研究室で教務補助として1年間勤務。島崎先生のデンマークでの留学経験を伺い、いつか私も海外で学びたいと思うようになりました。就職前に、ヨーロッパ各国をバックバックで巡り、芸術やデザインが風土や生活の中から生まれていることを実感しました。3年間の会社勤務を経て、ポストモダンデザインの中心地ミラノへ。幸運なことに、すぐにイタリア人建築家のミケーレ・デ・ルッキ事務所に就職し、建築、プロダクトデザインを4年間学びました。何よりも日本を外側から見た経験は、とても大きかったと思います。その間に訪れたアイルランドでは、アイヌ文様とどこか似ているケルト文様に出会い、文様にますます興味を持つようになりました。

帰国後、京都の唐紙の老舗「唐長」を訪れ、400年間受け継がれる650の文様が、インターナショナルであることに驚きました。文様を入りに、人類のイメージの古層を追う映画を作ろうと決めたのは今から7年前、北イタリアの岩に刻まれた1万年前の文様の前に立った時でした。古代、ケルト、アイヌ、唐長が繋がっていると直感しました。5年をかけて監督の茂木綾子、録音・音声のウエヤマトモコと3人で国内外を撮影し、昨年映画が完成しました。

ムサビで初めて開けたデザインの扉。様々な出会いと経験、そこから生まれた興味と疑問が、長い時を経て星座のように像を結んだのがこの映画です。映画から生まれるイメージが更に美しい波文となって広がり繋がっていくことを願い、これからも世界に向けて上映を続けていきたいと思っています。

フィシスと人間の内面をつなぐ中間点に、美が発生する——中沢新一

波文のフィシス

RIPPLES of PHYSIS

監督・撮影・編集：茂木綾子

出演：千田原吉、千田麻子、嶋岡真由、ヒューム・アレクシ・デュマ、村松 浩、渡辺 朗、門田 健、長澤 真男、ほか

録音・音声編集：ウエヤマトモコ 音楽：フレッド・プリス

プロデューサー：河合早苗

企画・製作・配給：SASSO CO., LTD.

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

2023年/日本/85分/カラー・モノクロ/ステレオ/16:9/DCP

© 2023 SASSO CO., LTD.



遠く、深く、文様に導かれた旅。

京都に400年受け継がれる唐紙文様を起点に、太古から文様にかたどられたフィシス(あるがままの自然)を通る。時空を超えて、そのあわいに見えてくるものは——



(上)(下左)「フィシスの波文」

神戸元町映画館にてアンコール上映予定。

2026年1月31日(土)~2月6日(金)

©2023 SASSO CO., LTD.

(下右) ミケーレ・デ・ルッキ事務所メンバーと

「フィシスの波文」公式

Q physis-movie.com





前略、あの頃のきみへ。

ムサビを退任された教授のエッセイをお届けします。



「鐘」／油彩・キャンバス／
『遠藤彰子展 生生流転』
札幌芸術の森美術館



名誉教授
油絵学科教授
(1996年4月～2018年3月)

遠藤 彰子

Akiko Endo

1969年武蔵野美術短期大学卒業。1978年昭和会展・林武賞受賞。1986年安井賞展・安井賞受賞／文化庁芸術家在外派遣研修（渡印）。2004年〔個展〕力強い生命の詩（府中市美術館）。2007年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2014年紫綬褒章受章。2021年〔個展〕魂の旅（鹿児島市立美術館）。2023年毎日芸術賞受賞。2024年〔個展〕生生流転（札幌芸術の森美術館）。

美術家とは、「美」という、普遍的でありながら定義しがたい概念に、人生をかけて挑み続ける存在です。美の本質は常に移ろい、社会や時代の価値観によって姿を変えていきます。その不確かさに向き合いながら表現を続けるには、どうすればよいのでしょうか。私は、外からの評価に左右されるのではなく、自らの内側から持続的に発展していける表現を見出すことが、何よりも大切だと考えてきました。

表現の在り方は人それぞれです。ある人は細部を極める具象的な方法で、またある人は論理的な思考の中に美を見出します。そうした姿勢は、これまでの人生で積み重ねてきた習慣や思考の結果として育まれてきたものです。言い換えれば、作家にとっての「美」とは世界の見方そのものであり、自分を知ることと世界を知ることとは、互いに響き合いながら、その人ならではの表現を形づくっていくのです。

授業では、まず「自分を知ること」を軸に据え、作家性を探るよう促してきました。そのうえで、発表の機会を積極的ににつくり、個展を開催することをイメージしながら制作に取り組むよう勧めてきました。なぜなら、展示空間を一つの物語として構成するためには、作品単体を超えて全体を見渡す視点が欠かせないからです。

鑑賞者は会場で、一つの感覚にとどまらず、変化の中で新たな発見をします。同じ構図や色彩、モチーフばかりが並んでいては、すぐに飽きてしまうでしょう。だからこそ、表現の幅を広げることが大切になります。さらに、立体や映像、テキストなど異なるメディアを取り入れることで、作品世界に厚みや奥行きをもたせることもできます。展示の流れを考えることは、自らの表現の可能性や課題に気づくための、重要な学びの機会でもあるのです。

私は2021年から全国7か所で巡回展を開催しました。その経験を通して、これまで学生に伝えてきたことが、自分自身の表現とも深く結びついていたのだと実感いたしました。どここの会場でも卒業生が訪ねてきてくれたことは、何よりも嬉しい出来事でした。

美術とは、作品を描き終えた瞬間に完成するものではありません。それが誰かと出会い、心を動かしたときに、初めて完成するのです。内なる表現を育てることが創作の核でありながら、最終的には他者との出会いによって作品は生き始めます。自分らの内なる表現を信じて、他者のまなざしを忘れずに歩み続ける——その姿勢こそが、創作を支える力になるのだと、私は思います。

BRANCH

学科支部より



『生デの会』

Q seidenokai.com

ブレ支部展《憩う》2025年8月29日～31日／ギャラリータカオ

この夏、ブレ支部展《憩う》を開催しました。厳しい残暑の中、ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。最終日には、酒井道夫先生をお迎えして、会場が手狭になるほどの卒業生が集まりました。憩いの場としては、ちょっと暑すぎましたが、皆さまの笑顔に会えて幸せなひとときを過ごしました。会期中の様子はホームページに掲載しております。今回のブレ支部展は、『生デの会』に関わってくれた卒業生と先生たちの作品を展示しました。本格的な実施のための準備段階と言う位置付けです。今後、どのように進めていくか、ご意見などありましたら、ぜひともお聞かせください。どうかこれからも『生デの会』と、ゆる～く繋がってほしいです。

『生デの会』会長 田村 陽子



『CICAL@』

CICAL@が設立されました！

はじめまして！CICAL@（サイキュラ）事務局長の中川です。CICAL@はクリエイティブイノベーション学科（CI学科）と大学院クリエイティブリーダーシップコース（CLコース）の校友会支部として発足しました。新設学科のため支部がなく、またCI・CLの仲間は多彩な人材でありながら、学年間や学部・大学院を超えた交流が乏しい状況にありました。この課題を理事長にご相談したところ「校友会支部をつくれ！」という鶴の一声で準備が始動。2025年2月には80名が参加するホームカミングデーを開催し、6月の支部総会から活動を始めました。今後は市ヶ谷を拠点に、卒業生が気軽に集まり、刺激し合える場を育てていければと思います。

『CICAL@』事務局長 中川 脩平

支部長・事務局長交代

支部長

宮城支部 宮野 一男 → 日向 朋史(92 通デブロ)
埼玉支部 南部 昌亮 → 星 啓子(12 通油絵)
富山支部 吉川 信一 → 加藤 則子(83 短芸アバ)
芸空の会 官浪 辰夫 → 足立 光(90 学空)
CICAL@ 木越 純(20 院CI)

事務局長

長崎支部 古家 満壽 → 藤原 正孝(81 学油)
福岡支部 桑原 聖 → 森 秀信(90 院美彫)
芸空の会 大坂 久敏 → 福田 寿寛(96 院デ空)
CICAL@ 中川 脩平(23 院CI)



CALENDER

校友会カレンダー

校友会のイベントや支部活動の予定表です。
2025年12月現在の情報です。

毎月開催 Every month

愛知

第3土曜日

月イチミーティング

葵倶楽部(愛知事務局) / 052-934-7035

支部問合せ先 facebook.com/msbaichi

新潟

第4日曜日

駅南デッサン会(求美会)

新潟市駅南コミュニティセンター 3F美術工作室 / 025-246-6617

支部問合せ先

(新潟支部デッサン会担当)

1月 January

ムサビの会

9(金)・14(水)

musa2アート&デザイン展2025

O美術館 / 03-3495-4040

支部問合せ先 musa2.org/inquiry/

愛知

18(日)

新年会

会場未定

支部問合せ先 facebook.com/msbaichi

後援展覧会

1/19(月)・25(日)

第54回檸檬展(通信卒業生グループ展)

ギャラリーくぼた / 03-3564-6348

3名以上のムサビ卒業生のいるグループ展へ

後援(名義・助成金)を行っています。

詳細やお申し込みは校友会WEBサイトをご覧ください。

CICAL@

31(土)

CICALホームカミングデー

市ヶ谷キャンパス 7F Ma

支部問合せ先 cical.almuni@gmail.com

宮城

日時未定

新年会

会場未定

支部問合せ先 info@msb-miyagi.com/

2月 February

和歌山

2(月)・28(土)

和歌山支部小品展

珈琲房西屋 / 0735-22-8077

支部問合せ先

(和歌山支部長)

福岡

10(火)・16(月)

MMS(Musubi Museum Shop)

博多マルイ 3F イベントスペース

支部問合せ先 fukuoka3763@msb-fukuoka.com

奈良

22(日)

役員会

ギャラリーカフェTakeno / 0742-22-7615

支部問合せ先

(奈良支部長)

高知

22(日)

支部総会・懇親会

(株)センプラン研究所(懇親会は会場未定) / 088-822-1184

支部問合せ先 msb.kochi.obog@gmail.com

3月 March

栃木

4(水)・8(日)

武蔵野美術大学校友会栃木支部展2026

栃木県総合文化センター / 028-643-1000

支部問合せ先

(栃木支部事務局長)

新潟

15(日)・22(日)

新潟支部展

新潟市美術館市民ギャラリー / 025-223-1622

支部問合せ先 hoshi712@icloud.com(新潟支部事務局長)

奈良

29(日)

懇親会

ホテル尾花 / 0742-22-5151

支部問合せ先

(奈良支部長)

2026年 1月～6月

4月 April

愛媛

19 (日)

支部総会

会場未定

支部問合せ先  figaro-fine.yume-5211@docomo.ne.jp
(愛媛支部長)

千葉

21 (火) > 26 (日)

第49回千葉支部展

千葉県立美術館 第4室 / 047-420-2111

支部問合せ先  issei715earth@yahoo.co.jp (千葉支部長)

宮城

日時未定

支部総会

せんだいメディアテーク / 022-713-3171

支部問合せ先  info@msb-miyagi.com

山形

日時未定

役員会議

会場未定

埼玉

日時未定

支部総会

会場未定

支部問合せ先  musabi-saitama.jimdofree.com

5月 May

山口

1 (金) > 5 (火)

山口ムサビ展

クリエイティブ・スペース赤れんが / 083-928-6666

支部問合せ先  yamaguchi@msb-net.jp

大阪

17 (日)

クロッキー会 (12:00-14:30) 支部総会 (15:00-17:00)

江之子島文化芸術創造センター2階 / 06-6441-8050

支部問合せ先  mail@msb-osaka.org

茨城

31 (日)

第28回茨城支部総会

牛久中央生涯学習センター会議室 / 029-874-3111

支部問合せ先  ibaraki@msb-net.jp

埼玉

日時未定

街歩き

熊谷エリア

支部問合せ先  musabi-saitama.jimdofree.com

6月 June

鹿児島

2 (火) > 7 (日)

第41回む展

鹿児島市立美術館 / 099-244-3400

支部問合せ先  yomikke1@mac.com (鹿児島支部事務局長)

神奈川

29 (月) > 7/5 (日)

武蔵野美術大学出身作家によるM展

画廊・楽 I & II / 045-681-7255

支部問合せ先  (神奈川支部長)

宮城

日時未定

デッサン会

会場未定

支部問合せ先  info@msb-miyagi.com/14名
受賞

支部展「新人賞」2025年4月～9月

都道府県ごとに開催される支部展では、支部の選出のもと最大3名、新人賞を授与しています。受賞作品はWEBサイト、各種SNSにて公開中！

Q www.msb-net.jp/news/news_rookie

f msbnet.jp X msb_alumni Instagram musabi_alumni



後援実績 (承認2025年4月～9月)

卒業生グループ展等への後援助成 10件

校友会WEBサイトにて、後援実績を紹介しています。



CLOSE UP

支部クローズアップ

卒業生
在住者数
917名
(2025年9月)

茨城支部

「第22回茨城支部展」&
「2025ムサビ茨城支部 &
鹿行作家 交流展」茨城県ご出身の方、
茨城県在住の方の展示等、
活動情報を募集しております。
支部活動参加希望者もご連絡ください。

✉ msb.ibaraki@gmail.com



支部展にて木組みシーソーで遊ぶ来場者



交流展ギャラリートーク

第22回茨城支部展は、つくば美術館(つくば市)で7月1日～6日に開催しました。今回は、24名と例年よりは少ない参加者でしたが、作品展数は100点を超え質・量とも見応えある展示となり、904名が来場しました。

茨城支部では「観るだけではなく参加する支部展」を開催コンセプトにしています。今回の出品作品のひとつ、日本の伝統的な「金輪継ぎ」の技法で作成した木のシーソーは、実際に乗って遊んでもらうだけでなく、シーソーの分解、組み立てを来場者に体験してもらいました。また、茨城支部恒例のワークショップでは、「万華鏡作り」と「缶バッジ作り」の二本立てで行い、どちらも小さなお子さんたちから大人まで幅広い年齢層の方に楽しんでもらいました。

茨城支部だけが抱えている問題ではないと思いますが、支部展参加者が県南地域に偏る傾向があります。今回、つくば美術館での支部展終了後、鹿行地区(鹿嶋・行方・潮来)在住の会員の尽力により、水郷まちかどギャラリー(潮来市)で鹿行地区の作家の方々と交流展を開催しました。初めての試みでしたが、参加人数39名(うち茨城支部会員11名)、作品点数48点、223名の方が来場しました。—— 茨城支部事務局長 坂本 万里子

茨城県のおすすめスポット

茨城県といえば筑波山は、はずせません。登山も楽しいですが、麓の筑波山神社に参拝するために整備された「つくば道」から眺める筑波山は、標高877mの数字以上の雄大さを感じさせます。

県の中央にある「国営ひたち海浜公園」は、花の公園として有名です。春のネモフィラは「一度は行ってみたい絶景」として、いろいろな媒体で紹介されています。秋は、コキアが見晴らしの丘を真っ赤に染め上げます。こちらも絶景です。

筑波山(春)
水田に映る逆さ筑波山(つくば道から)ひたち海浜公園(秋)
真っ赤に色づくコキア

奨学募金

2025年4月1日～2025年9月30日寄付の方々

80 木村 高雄	01 深川 多永子	18 河西 久美子	79 佐森 芳夫
94 高根澤 史生	19 日暮 功一	71 関根 真知子	16 三宅 一生
72 清水 やよ生	24 堀口 やよい	92 宮坂 祐子	65 伊藤 洋子
79 岩崎 寿文	87 加藤 雅之	75 西岡 康雄	75 日高 一成
87 稲向 佳子	90 花田 理絵子	11 竹安 慶三	99 九万田 雄介
92 林 輝代	91 武野 しずえ	15 本村 由美	72 唐澤 顕一
05 鈴木 孝子	71 新井 秀子	24 日比野 彩矢	86 塚平 秀男
61 重広 愛子	69 萬澤 まつ江	98 川上 紀久子	05 原 哲
86 米倉 初子	02 岩下 幸一	77 土橋 邦俊	74 内藤 恵美子
00 向井 昭人	81 狩野 博恵	81 柴田 直美	75 清峰 輝代
09 松川 明大	87 坂口 久美子	89 熊沢 タ子	〇 匿名希望
66 入口 ふさ子	94 中島 和賀代	14 佐々木 剛哉	
66 押切 京子	06 菅谷 知子		
82 柏原 香	65 松浦 マサ子		
83 宮島 秀和	00 松元 念一郎		
89 江崎 明男	70 近藤 博子		
75 小泉 千波	78 堀越 正明		

※敬称略 送金順 数字は卒業年度
のべ59件

¥558,026

2025年度武蔵野美術大学校友会
奨学生12名決定

通学課程4年 募集人員12名

各100,000円(贈与)

10月19日㊤書類審査通過27名を面接審査(Zoom)選考後、厳選なる審査のうえ、
下記12名を奨学生として決定いたしました。*出願者96名 *敬称略

野口 彩 日本画学科	佐藤 雪乃 視覚伝達デザイン学科	鵜飼 ひなた 空間演出デザイン学科 ファッションデザイン専攻	大橋 未結 デザイン情報学科
淵田 紗葵 日本画学科	伊藤 遼 工芸工業デザイン学科 木工専攻	田村 渚歩 建築学科	黒米 穂美果 映像学科
鈴木 柚乃 油絵学科油絵専攻	長橋 利代子 空間演出デザイン学科 インテリアデザイン専攻	児玉 綾菜 基礎デザイン学科	山邊 愛咲子 映像学科

通信課程4年 募集人員3名

各100,000円(贈与)

研究室より推薦いただいた後に、校友会にて厳正なる審査のうえ、
下記3名を奨学生として決定いたしました。*出願者18名 *敬称略

大森 直 油絵学科 絵画表現コース	島袋 梓 芸術文化学科 芸術研究コース	横濱 さくら デザイン情報学科 デザイン総合コース
-------------------------	---------------------------	---------------------------------

逝去された会員の方々

皆様のご冥福を心よりお祈りいたします

逝去のご連絡は事務局までお願いいたします。

60 校本洋通・伊原 よし子(牧野)	95 学日・諏訪 陶子(村松)	85 通美油・西田 四郎
66 大専工・藤倉 孝義	80 短デ工・鈴木 清美	80 学基・宮本 薫
68 短専美・堀田 浅子(小暮)	63 校本洋・小沢 真弓	68 通美油・市川 正枝
06 通油絵・田中 愛一郎	57 校本洋・田中 明子(山口)	91 学建・中村 謙太郎
83 学日・岩淵 金満	85 院美日・香川 元太郎	72 学産芸・中村 勉
76 短デ商・原科 純江	59 校図二一・吉野 定夫	
59 校本デ商・山藤 章二	02 通美・依田 淳二	
12 通油絵・粟生田 登	60 校本洋・西川 篤	

(2025年4月～2025年9月
連絡のうち掲載承諾のみ掲載)
※敬称略、()内は旧姓

新常任幹事紹介

まえだしずか
前田 静佳

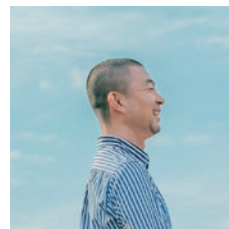
22 / 通芸文

東京都出身。漫画家・イラストレーター・デザイナーとして活動しています。皆さんの創作がますます輝くようサポートできれば幸いです。

はすみよしずみ
蓮見 伊澄

19 / 通芸造

北海道出身。ビジネスコンテンツの編集をしています。卒業後も武蔵美を通じた出会いに恵まれているので、恩返しできたらと思っています。

さかいたかし
坂井 尚

93 / 院美日

山口県出身。造形ディスプレイ制作会社勤務。主な業務は模型制作や博物館展示です。自身の作品制作、アートイベントの主催もしています。

なかがわしゅうへい
中川 脩平

23 / 院CI

東京都出身。監査法人に勤務し監査やDX業務に従事。企業組織におけるデザイン思考の浸透を中心に幅広く研究活動を行っています。

なおえともこ
直江 智子

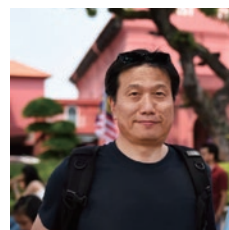
24 / 通芸文

神奈川県出身。音楽業界を経て、ITの業界団体に勤務。アートで幸福感を倍増させています。ムサビ・コミュニティの活性化に寄与したいです！

ただのりお
武田 規歩

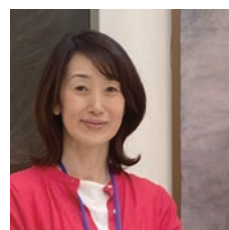
24 / 通油絵表

神奈川出身。横浜で絵画教室運営委員をしていますが名古屋に移住します。武蔵美の皆様と楽しくつながりたいです。よろしくお願いします。

わたなべまさこ
渡邊 雅子

24 / 通油絵表

東京都出身。化粧品メーカーデザイナーを経て、現在は絵画教室の講師をしながら作品を作っています。どうぞよろしくお願いいたします。



※msb! マガジンでは一部抜粋して掲載しています。

1



さいとう まき

齋藤 槇

04 学日

ペンギんたいそう

笛 巖 絵



0.12 光臨人



やまもと ほ ず

山本 豊津

70 学建



おおさき ゆう

03 学視

※デザインストラテジストとは
会社や組織が抱える問題を、デザインの力で解決する専門家。ポスターやロゴを「つくる」のではなく、「どんな体験を届けるべきか」「どんな価値があれば人は喜ぶか」を最初から一緒に考える仕事。ブランドの方向性を決めたり、新しい事業を立ち上げたり、会社の仕組みを変えたりと、ビジネスとデザインをつなぐ戦略を考える役割。



次号より、リニューアルいたします。

NEW DESIGNER!

みやもと はな
宮本 巴奈

20 院デキ

武蔵野美術大学大学院基礎デザイン学コース修了後、
出版社勤務を経て独立。出版プロジェクト・LIPSUM
(リプサム)主催。企画、編集、デザインなど、本づ
くりの“まえがき”から“あとがき”まで、幅広く携わる。



大好きな母校に、クリエイティブで恩返しできる貴重な機会をいただ
いたことに感謝いたします。七万人を超える校友のみなさまにとって読み
やすく、心躍る誌面づくりを目指します。msb! マガジンを読む時間が、
ささやかな楽しみになりますように。よろしくお願いいたします！



Photo: Tsukiko Chikuma



現会報デザイナー
より
つるおか ゆうじ
鶴岡 裕至
05 学基

一本の線が、いつのまにか多くの人へとつながる“線”
へと変化した5年間でした。事務局の滝美さん、住吉
さんはじめ幹事会・制作メンバー、取材に応じていた
だいたみなさま、そして5年間お付き合いいただいた
全校友のみなさまに深く感謝申し上げます。宮本さん
デザインの次号からもこの媒体を通じて校友会が益々
活性化され、美がつづくことをお祈りいたします。



2029年、武蔵野美術大学は創立100周年を迎えます。

武蔵野美術大学100周年ウェブマガジン

2029mag.musabi.ac.jp/



1929-2029
100th
美はつづく。

まだまだ学べるムサビのアート。 ムサビ通信で広がる可能性！

ムサビで過ごした学生時代を懐か
しく感じている貴方、スキマ時間
を使ってもう一度鷹の台キャン
パスで学んでみませんか？アート・
デザイン、資格取得等、まだまだ可
能性を広げるチャンスが通信教育
課程(ムサビ通信)にあります！

通信教育課程WEBサイト

cc.musabi.ac.jp/



彩りある 未来創造パートナー

KUSAKABE
since 1928
www.kusakabe-enogu.co.jp

● Artist's
Oil Color
Water Color
Aqyla
● Daler-Rowney
● Silver Clay
● Others



エミュー武蔵野美術大学店

営業時間: 8:00~20:00 日曜定休

ふんわり、しあわせの味。
とっておきのおいしさを
お届けします。

http://www.ichikawa-bake.com



額・画材・デザイン用品・文具

世界堂



店舗、イベント・実演や
注目商品など情報が満載!!
←コーポレートサイト

ONLINE SHOP

世界堂 通販



武蔵野美術大学

(鷹の台キャンパス内 鷹の台ホールA棟1F)

042-349-3344

画材・絵具・造形材料
文具・デザイン用品
設計・製図用品・模型材料
データ出力・製本・レーザー加工



事務局お知らせ

住所、氏名、メールアドレス、勤務先等に変更が生じた場合は、事務局までご連絡ください。

WEBサイトに掲載しませんか

受賞、展覧会情報をぜひお知らせください。校友会WEB
サイト・SNSにて、校友の皆さまにご案内いたします。

メルマガで校友会の最新ニュースをお届けします

校友会のニュースやイベント、大学の情報などをお届けします。ご希望の方
は、校友会WEBサイトよりメールアドレスをご登録ください。

武蔵野美術大学校友会事務局

〒162-0843 東京都新宿区市谷町1-4 8階

開局時間: 月曜日~金曜日(午前10時~午後6時)

お
問
合
せ

www.msb-net.jp

TEL 03-5579-2789

FAX 03-5579-2868

msb@msb-net.jp

@msbnet.jp

@msb_alumni

@musabi_alumni

会員特典

各種特典の詳細・お問合せ先はこちら
www.msb-net.jp/activity/privilege



Benefits - 1

大学施設利用

武蔵野美術大学 美術館・図書館
& イメージライブラリー & 大学寮
の継続利用。

www.musabi.ac.jp/outline/facility/welfare/

Benefits - 2

全国の西武プリンスホテルズ & リゾート施設の優待利用

www.princehotels.co.jp/keiyaku

ユーザー名:
パスワード:

Benefits - 3

日本フィルハーモニー 交響楽団演奏会優待利用

www.japanphil.or.jp/ticket/order

ログインID・パスワード: 各自登録
優待コード:

Benefits - 4

ホリプロステージ チケット優待利用

horipro-stage.jp/

会員ID:
パスワード:

Benefits - 5

ダイヤモンド社

詳細はこちら
dndsnet.com/dw23/

ご案内コード:

Benefits - 6

キョードー東京 チケット優待利用

tickets.kyodotokyo.com/kyodosales//

ログインID:
パスワード:

Benefits - 7

シェアアトリエ 「ONVO STUDIO INAMACHI」 優待利用

onvo.jp/inamachi

申込みの際に、卒業年度、卒業学
科、生年月日をお伝えください。

Benefits - 8

コワーキングスペース 「Ma」利用

打ち合わせや都心の待ち時間に
ドロップイン(事前予約)として利
用可能。

800円(税込)/1時間
3時間以降2,400円(税込)/日
10:00~18:00

ma.musabi.ac.jp/plan/